

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2572300073		
法人名	特定非営利活動法人 NPOワイワイあぼしクラブ		
事業所名	グループホームわいわい		
所在地	滋賀県湖南市石部東七丁目5番25号		
自己評価作成日	平成24年11月1日	評価結果市町村受理日	平成24年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成24年11月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「街かどのふつうの家でふつうの暮らし」を理念に、決まった日課はなく、お年寄りには毎日ゆったりと過ごしていただいています。決まった日課はない中でも、今まで生きてこられた暮らしを尊重し、裁縫や歌、大正琴、家事といった好きなことや得意なことを、スタッフと一緒に和気藹々としています。介護度が重くなられても、その方らしい暮らしを大切にするために、スタッフの体制に配慮したり、また、ボランティアの方にも携わっていただいています。終末期を迎えられても、わいわいで過ごせてよかったと思っていただけるよう、心温まるケアを目指しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は小高い丘陵地の閑静な住宅街にあり、市街を望む見晴らしの良い高台に立地している。エレベーターを備えた2階建てであるが、斜面を利用して2階にもバリアフリーの出入り口を設け安全面に配慮している。廊下は通常よりも広く開放感があり、居間がある1階は床暖房を設置するなど利用者が気持ちよく過ごせるよう工夫している。開設して10年が経ち利用者の要介護度も高くなり、殆どの利用者が車椅子を利用しているが、家庭的な雰囲気を大切にして1人ひとりの要望に合わせて臨機応変なケアを行うよう心掛けている。毎日1人ひとりの行動を1時間毎に「くらしの様子」に残しており職員間の連携を密にしたサービスをしている。終末期ケア方針は明確で最近では毎年1人の看取りをしている。日常ケアでも看護師が週3日勤務し、緊急時には協力医と連携して対応しているので安心できる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をリビングに掲示しており全職員が共有している。それを具体化したものを会議等で確認している。また、新規職員については、法人内の初任者研修にて学ぶ機会を設けている。	「街かどの普通の家で普通の暮らし」を理念として尊厳のある自立した暮らしをその人らしくしてもらえるようにしている。毎月の職員会議で日頃のケアを理念に照らして振り返り実践につなげるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っており、常会に出席している。職員は清掃活動や草刈り、また、今年の夏には町内の夏祭りにも入居者と参加をした。当法人の夏祭りには近隣住民の皆さまにも参加いただいている。	自治会に加入し職員は清掃活動や草刈の地域行事に参加、夏祭りには利用者も参加している。事業所の夏祭りに地域住民も来てもらっている。年4回発行の「わいわい通信」を地域に配布して理解を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員の見学受入を行い、現状や支援についてお話をさせていただく機会があった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催をし、必ず出席者全員から一言いただくようにしている。入浴時のリフトやリビングのリフォームに関して意見を伺い、導入に向けて検討している。	会議は2ヶ月毎に開催し議事録を残している。外部評価も取り上げ報告し、改善課題の進捗状況についても説明し検討している。職員には職員会議で報告して日常のサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所内で解決できない事や分からない事に関しては、市の担当窓口相談をし、連携を取っている。また、湖南省介護保険事業者協議会の研修には年間計画を立て、必ず出席している。	地域包括支援センターに毎月1回は訪問して利用者へのサービスの問題や事業に関する相談をしている。理事長は市から依頼を受けて社会福祉事業に関する研修会の講師などを引き受け協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に参加し、理解を深めている。 玄関の施錠は、保安上、夜間時間帯(22時～6時)のみ行っているが、それ以外は開錠している。	職員は身体拘束に関する年5回の法人内研修を受講している。受講した職員は全体会議等で内容の報告を行い共通認識を持ちケアに活かしている。日中は玄関の鍵を掛けないで見守りで対応し、万一に備え地域との連携も取っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修に参加をし、理解を深めている。 常に入居者の身体状況を通して、虐待を見過ごしていないかの注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々に研修等で学んでいる職員もいるが、現在必要とされている事例がなく、理解を深めるに至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事前に見学や説明といった話し合いの場を持ち、入居者やご家族との関係を築いている。 契約に関しては、質問を受け、事務担当者とともに確認しながら進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回、市より介護相談員が来所し、事業所内の様子や入居者とのやり取りを持ち帰ってもらっている。 ご家族との面会時に、各担当職員が中心とない、要望等を聞きだすようにしている。	家族面会時や運営推進会議の来所時に面談し意見や要望を聞き運営会議で取り上げている。家族の要望でもあった利用者1人ひとりの様子の写真を送付している。苦情相談窓口は重要事項説明書に明記している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、運営会議を行い、意見や提案を出し、協議している。 今年度は夜勤の可能な職員の育成に努めた。	運営会議を月1回開催して職員から運営に関する意見や改善要望について聞く機会を設けている。職員から夜勤の回数を減らして欲しいという要望を聴き、夜勤できる職員を増員している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度は、まだ理事長を含む、理事との面談を行っていないため、今後予定を組みたい。 労働時間に関しては個々の希望をできる限り取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの力量を把握した上で、研修の計画を立て、研修を組み込んでいる。 法人内研修は、積極的な受講を勧めており、資格取得に対しての支援もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護保険推進全国サミットに参加し、他事業所との交流を持つ事ができた。 他事業所の見学を行い、入浴のリフトに関しては実際に見る事で参考になった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居を希望された段階で、見学に来ていただき、ご本人と話すことにより、情報を得ている。 入居後は、入居時ケアプラン等で、全職員が情報を共有し、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人と同様に、ご家族ともゆっくり話す機会を設けており、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当のケアマネージャーとの意見を交わした上で、ご本人、ご家族との話し合いを重ねることで、入居時ケアプランを作成し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側ではなく、“いっしょに”を念頭に、日々生活を送っている。 何事も、ご本人と一緒にする事により、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会、ご家族との外出、外泊される時間を大切にし、その時にご家族の感じられたことなどを聞き、同じように支えられるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に1～2回、自宅に外泊される方もおられ、その際には、行きつけの美容院に行かれている。 古くからの知り合いや、なじみの方が当事業所に足を運んでくださっている。	利用者の馴染みや知り合いが訪問してきた場合はくつろげるように畳の部屋を提供し、再訪してもらえるよう配慮している。日帰りのドライブ時に希望に合わせて知人宅に立ち寄りするようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングに複数のテーブルや椅子、ソファを配置して、入居者同士が関わりやすい環境を作っている。 コミュニケーションを取るのが難しい方は、職員が間に入り、関わり合えるよう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した例はみられない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との普段の会話や言動等から思いを汲み取るように心がけている。 担当職員とケアマネージャーが中心となり、アセスメントを行い、ケアプランに反映させている。	入居時のアセスメントシートを参考にしながら担当職員は利用者の日常の会話やしぐさから思いを把握するよう努めている。利用者の暮らしの様子について毎日1時間毎に行動気付き点を記載して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、また、担当のケアマネージャーから話を伺い、これまでの生活の様子の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	”暮らしの様子”に心身の状態や、ご本人が話される事をそのまま記入することで、その人らしさが分かる現状を情報として共有している。日々の連絡事項には連絡帳も活用し、さらに終末期ケアの方には、専用のノートを作成する等の対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回のモニタリング、3ヶ月に1回のカンファレンスで現状の把握、課題点等を話し合い、介護計画に反映させている。 状態に急な変化が見られた時には、緊急カンファレンスも行っている。	毎月のモニタリングと3ヶ月毎のカンファレンスをもとに管理者と担当職員は看護師と相談して、介護計画の見直しを行っているが家族の同意は得ていない。	3ヶ月毎に行った介護計画の見直し内容を家族に報告し承認印を得るようにして欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は些細な事でも記録に残すようにしている。 課題だけでなく、魅力についての気づきもカンファレンスや会議で情報を共有し、実践や介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の希望により、法事に参加される方の付き添いを職員がした。 また、入居者の症状によっては、婦人科や皮膚科等のかかりつけ医以外の病院を受診する事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーを利用したり、公園までお散歩に出かけたりしている。 祭りでのお神輿見物や地域の夏祭り、文化祭等に出掛けた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員が近隣の小川診療所をかかりつけ医としている。 歯科の訪問診療を受けている方もおられる。	入居時に利用者と家族はかかりつけ医と話し合い、協力医をかかりつけ医として24時間体制で診療支援をしてもらっている。毎月協力医の訪問および診療を受けている。歯科医にも訪問診療をもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が健康チェック、薬の管理、受診の付添等をしている。看護師不在時は電話でいつでも連絡を取れる体制となっている。また、連絡帳も活用し、入居者の些細な変化も報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医との連携を取っており、往診にて治療が出来る場合は、可能な限り事業所内で行っている。 入院の判断は、ご家族の思いも含め、かかりつけ医と相談し対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期ケアに関する説明をご家族に行い、事前意向確認書を取り交わしている。 実際に終末期に入った場合、かかりつけ医より説明を受け、ご家族と連携を取りながら方針を共有し、支援している。	終末期ケアに関する方針を明文化し入居時に説明している。入居時に予め意向を聞き書類で確認し看取り介護希望者には同意書を取り交わしている。終末期を迎えた時点で医者から対応を説明し改めて同意を得ている。最近では毎年1人の看取りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議や日々のケアの中で受けている。 また、自主的に救命講習を受けているスタッフもいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震に備えた避難訓練を年2回計画している。	年2回災害避難訓練を消防立会いのもと実施し、災害対応マニュアルも作成している。 緊急時連絡網を事務室に掲示し消防署には非常連絡電話を設置している。緊急時には地域と連携できる協力体制を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いと対応をするように心がけている。 会議にて具体例を挙げて、全スタッフに周知するようにしている。	年長者としての敬意を払い、本人の尊厳を大切に、誇りやプライバシーを損ねないよう言葉使いに気を付けて対応している。個人情報保護に関する研修を年1回開催し全職員が受講している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた声かけをし、本人の希望を聞いている。 言葉で思いを表すことができない方は、表情や仕草で読み取るように努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでの生活リズムを大切に、その日の体調や気分に合わせて過ごし方が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際、その日着る服を選んでもらっている。意思の表現が難しい方には、その人らしさを感じさせる身だしなみをしていただけのように配慮している。 お化粧をされる方にはお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に盛り付けをしたり、具材を切ったりしている。きんぴらごぼうの作り方を教えていただいた事もある。 飲み物も数種類から選ぶ楽しみをもっていたいでいる。	毎日の朝食と週2日の食事は事業所内で全て調理している。週5日の副食は配食センターから配達してもらっている。皆で調理し盛り付け後片付けをしている。誕生会のおやつやおせち等は皆で作って楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事がすすまない時は、ゼリーやプリン、果物等の食べやすいものを勧めている。 食事の形状は、一人ひとりに合わせている。水分に関してはこまめに飲んでいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後、昼食後、夕食後に口腔ケアをしている。歯みがきや入れ歯の手入れの他に、うがいの難しい方には口腔ケア用スポンジの活用をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに応じて、トイレにお誘いしている。 トイレに座っていただく事の大切さを学び実践している。ご自分でトイレへ行けない方でもトイレでの排泄を支援している。	1人ひとりの排泄パターンを日常観察して記録しており、それに基づき排泄を促したり誘導支援をしている。さりげない声掛けの中から察知し排泄介助支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や水分を多く摂っていただいている。 また、天気の良い日には散歩に出かけ、日光を浴びるように努め、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望や体調に合わせて入浴していただいている。排便をされた際には不快な思いをされないように、シャワーや入浴にお誘いしている。夕食後に入浴される方もおられる。ご本人の負担や苦痛等を軽減するために、入浴のリフト導入を検討している。	毎日入浴できるが利用者の希望や体調に合わせて基本的に最低でも週2回、午後2時から8時までに入浴している。全員の入浴介助を行っており、入浴リフトを早期に導入する予定である。	介護度の高い利用者でもリフト導入により週3回以上の入浴を望みたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングにソファーベッド、和室にベッドがあり、その時々状況に応じて休息ができる。 体調によっては居室でゆっくり休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況は、一つのファイルにまとめてあり、いつでも確認ができる。 また、用法や症状に変化のある時は、看護師が連絡帳に記録し、全職員に周知できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽が好きな方は、大正琴やハーモニカを演奏したり、歌を歌ったり、CDを聴いたりして楽しめる。 食器拭きや洗濯物たたみ等の出来る家事を役割とされている方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望されることは少なく、職員側からお誘いし、出かける事が多い。おやつを買いに行きたい等の希望には、すぐ対応するように努めている。春には、近所の祭りやいちご狩り、夏には法人内の夏祭り、秋には日野方面へ日帰り旅行に出かけた。いちご狩りと日帰り旅行はご家族も数名参加された。	利用者全員の要介護度が高くなり、ほとんど全員車椅子が必要な状態で日常的な外出は難しくなっている。しかし週に一度程度は可能な限り戸外に出かける支援をしている。季節毎には地域の祭りやイチゴ狩り、日帰りドライブには家族も一緒に出掛けている。	天候の良い日には近くの公園や広場に車椅子で出掛ける機会をできるだけ増やすよう期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段、ご自分でお金を持っておられる方は少ないが、買い物やおかしの訪問販売等には、ご自分の財布から支払ってもらうように支援している。不意にお金の心配をされる方には、(ご家族に協力いただき)通帳やお金を見ていただく事で、安心してもらえるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でご家族と話される方、手紙のやりとりをされる方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花をいけて下さる方がおられ、リビングに飾っている。夏場にはボランティアさんに設置していただいたゴーヤカーテンを栽培し、目でも楽しんでもらった。 七夕の笹やクリスマスツリーの飾りつけと一緒に、季節感を取り入れている。	2階からもバリアフリーで出入りできるようになっている。1階の居間や廊下は床暖房を設備している。廊下はかなり広いが、生活感やなつかしさを醸し出す古い家具を置いている関係で掃除が行き届きにくい。季節感のある生け花や手づくりの作品を飾っている。	せっかくの広い廊下であり、古い家具を置いている意味を活かすためにも、また非常時のことも考えて一度整理をし直して欲しい。併せて共用空間の丁寧な掃除を望みたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには複数のテーブルと椅子、ソファがあるので、気の合う入居者同士で過ごされる事もあれば、一人で過ごされる事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具や、慣れ親しんだ物、ご家族の写真、遺影等のなじみのある物に囲まれた空間を作っている。	居室は全て6畳の和室であるがベッド使用も可能でエアコンも設置している。個々の居室には慣れ親しんだタンス、小物入れ、テレビを置き、家族の写真も飾って家庭の雰囲気になっている。家族も宿泊できる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、居室に表札やのれんを掲げる事で、一目で分かりやすいように工夫をしている。また、トイレや浴室には手すりが取り付けられており、安全な造りになっている。 リビングの椅子に関しては、幅の狭いタイプのものを購入し、姿勢良く食事をしていただけようになった。		

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	3ヶ月に一度、カンファレンスを行っている。課題や変更点については、電話や面会時、または担当スタッフからの毎月の通信(お便り)にてお知らせしているが、承認印は得ていない。	決定事項については、確実にご家族に報告できるようにする。	カンファレンスへの参加の呼びかけをさせていただく。 不参加であっても、カンファレンスでの決定事項をご家族に報告し、承認印をいただく。	6ヶ月
2	49	要介護度が重くなられ、外出を希望される入居者の方が少ない。 日常的な外出が少なくなっている。	希望を自ら言われなくても、外出のお誘いをし、その際の様子や表情を把握する事で思いをくみ取り、日課としてつなげていきたい。	天気の良い日には、散歩に出かける機会を増やす。 気分転換のために、外気浴やドライブにもお誘いする。	6ヶ月
3	52	二階の廊下(共用部分)の掃除が行き届いていない。	生活感や懐かしさを醸し出すために古い家具を置いているが、置きっぱなしにならないように丁寧な掃除を心がけたい。	入居者の方の居心地の良さに配慮しつつ、整理をする。 定期的な掃除を行う。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。